

西小は 大きな 家族

Family

～校長のたわいもない独り言・その2

令和元年6月20日(木) No.16

発行人

今日も松ぼっくりをもらう。校長室のオブジェが増えた川崎先生(^^)v

●6月ってなぜこんなに時間が経つのが速いのだろう?●

◆天気の良い清々しい日の朝は子どもたちの様子も違う。まず登校が早い。きつと歩みが進むのだろう。そしてなにより笑顔があふれる。遠くから”おはようございま〜す”と声が響く。”校長先生、あのね〜”と話しかけてくれる子も”はい、これ”と言って道端の珍しいものをプレゼントしてくれる子も。これもみんな青葉の季節、初夏のなせる業か。よきかなよきかな(ム)

◆”校長先生、ダンクできますか?”と6年生に聞かれる。えっ?ダンクというと、あの砂利とか砂とか運ぶ大きな車?それはダンブ(-_-)あー、きれいなドレス着て踊ったりするやつ。それはダンス(-_-)えっと、家作ったりする人。それはダイク(-_-)なんて会話はしなかったけど、普通は無理っすよ。そりゃミニバスのゴールならできるけど(多分)、一般のゴールは高くて無理っすよ。それにもう川崎は還暦なんだからね。

と置いていたら、ある日の昼休みに児童会役員が校長室を訪ねてきた。どうやらこれはなんでもポストに入っていた質問らしい。なるほど、聞かれた理由が腑に落ちた。

◆やべっ!こっそり(でもないけど)中学校の総体(バスケットボール)の審判をしていたらPTA会長さんたちに見つかった。会長「どうも似た人がいるなあ〜」、川崎「観客席に似た人がいるなあ〜」。はい、お互い様(^^)v

◆やべっ!こっそり(でもないけど)オオノで買い物していたら、お酒(赤ワイン)買っているところを1・3年生のお母さんに見つかった。オムライスも買ったので、川崎の晩餐の様子がばれちゃった(^-^)

◆やべっ!こっそり(でもないけど)夕方に学校の畑のウマ(ウシとも言う)の足に転倒防止用の杭を打ってたら、「なにしてるの〜?」と通りかかった3年生のお母さんに見つかった。ピンクっぽいTシャツだから余計に恥ずかしい。どうかご内密に・・・(って、ここに書いてるし)。

◆やべっ!また転んだ。それも大きな段差とか障害物ではなくて、道にある反射板のほんの3センチくらいの突起につまずいた。走っている最中なのでゴロンと一回転。良かった〜車が来なくて。うえ〜ん、ランニング・タイツに穴あいた(T_T)。転んでできた傷よりも、タイツの穴の方が悲しい。傷ってそのうち治るけどタイツは治らないし。

◆わお!今朝はじめてジャンケンした6年生男の子の手がデカイことデカイこと!!川崎よりデカイ!!。勝ち負けより、その手のデカさが気になりましたとき。あー、なんか息子に追い越される父親の気持ちっすね〜。

◆いいなあ〜西小ハーモニー。1年生女の子のソロでのピアノ演奏から始まって、いろんなグループが次々と演奏を披露していく。男の子もピアノ弾いたり、鉄琴(今ではピブラフォンとかメタロフォンとか言うらしい・・・)演奏したり、男女問わずいろんな楽器を演奏する。それを子どもたちが思い思いのくつろいだ姿勢で聞いている。なんかアットホームな空間。後から遅れてやってきた子どもたちも、そっと座って聞き入る。この感じに癒される。そして最後はジョディtのアナ雪の熱唱。いやいやこれ反則でしょ。あまりにも本物じゃん。「レット・イット・ゴー」(英語発音だとレリゴーと聞こえるんだよね)の部分とかみんなノリノリ。あ〜、癒しの空間、和みの時間。